

名古屋の古道・街道

池田 誠一

【11】 善光寺街道…代官町から勝川へ

1 日本武尊の通った道

名古屋から信州に向かう道の中に、むかし日本武尊が通ったといわれる道があります。日本武尊は古事記の中では、熱田から東海道側を攻め登り、東国を制して東山道側の神坂(御坂)峠を越えて熱田に帰ったされています。(図1)

日本武尊は伝説上の人物といわれていますが、いずれにしても大和朝廷が東国を制する過程では、この尾張の熱田付近からの海沿い、山沿いのルートがあったのでしょう。

その道を今特定することは困難です。しかし

多治見市と春日井市との間の内津峠を通ったということから、江戸時代に善光寺街道とか下街道と呼ばれた街道の原形の道ではないかとされています。今回はこの日本武尊ロマンのある「善光寺街道」を追ってみたいと思います。

2 庶民の信仰と流通の道 …善光寺街道

(1) 善光寺街道

名古屋と信州を結ぶ道は古代から中世、近世

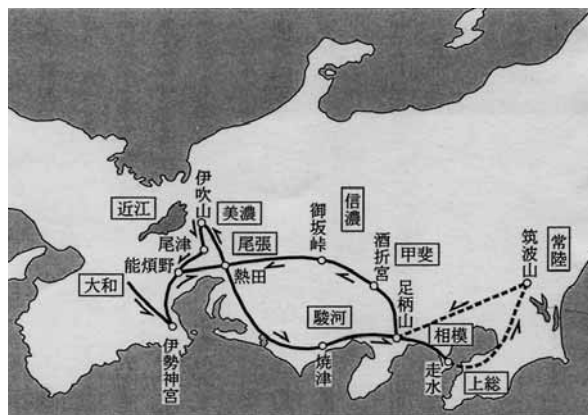


図1 古事記による日本武尊の東征ルート(文献1)

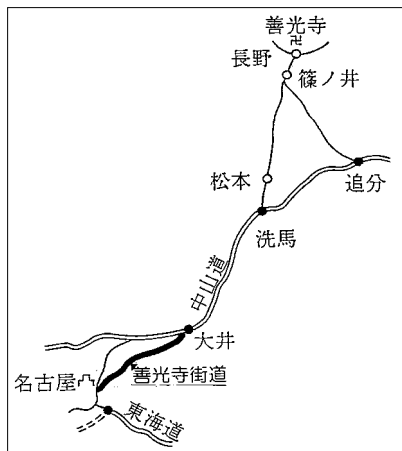


図2 名古屋から善光寺に

と形を変えつつ続いてきました。それが街道という形で一般化したのは江戸時代でしょうか。

善光寺街道は城下の本町通、札の辻から始まります。まず北に向かい京町筋を右折します。国道19号との交点、今の代官町交差点で北に曲がり、後はジグザグに赤塚を通り大曽根に。さらに北上して矢田川、庄内川を越え勝川に行きます。(図2) 勝川からは東北に曲がり、坂下を通り内津を越えて多治見に。後は土岐川を何度か渡りつつ金戸を過ぎ、坂を登って榎ヶ根の道で中山道に合流する、約54^{キロメートル}の街道です。

(2) 善光寺街道か下街道か

善光寺街道は下街道とされることも多い道で、明治の県道の名前も「下夕街道」でした。

下は上に対する言葉なのですが、いくつかの上があって定まりません。一つは名古屋から津島に行く道を、上方だから上街道というのに対して逆方向だから下というものです。二つは榎ヶ根で分かれる時中山道が上の道であるのに対して下にくだるから下だというものです。そして、この街道が下といったため、対立する木曽街道を上街道と呼ぶこともあったようです。

この道は、公用道の堅苦しさがなく、信州に向かう最も近く楽な道でした。このため公道を避けた物資の輸送とならんで、善光寺参りやお伊勢参り、木曽御岳の登拝など庶民の旅に利用されることの多い街道でした。

3 代官町から勝川へ

さて、街道を歩いてみましょう。(図3) 代官町の国道19号の西にある道標がスタートです。ここは**佐野屋の辻**と呼ばれ、北側に「京大坂道」、西側に「善光寺道」と記した石柱が立っています。京町筋は西に行くと美濃路につながるのです。

道は国道を1本北に行き1本西の道にはいった所から北に向かいます。少し行って平田町交差点を迂回します。北に進むと道が**樹形**

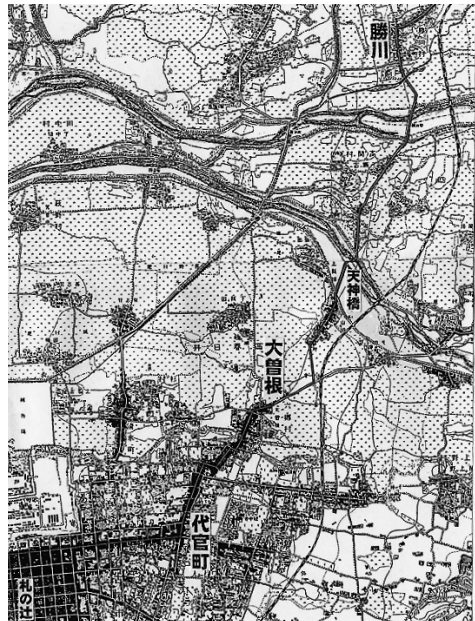


図3 市内の善光寺街道(明治24年鉄道追加)

になっています。宿場や城下町にはよく見られるのですが、名古屋に入る街道ではここが顕著です。少し北に行った西側に油屋の**熊野屋**があります。江戸時代から続く店で、表は現代風ですが中には江戸時代からの建物が残り、油の資料館になっています。

広い新出来町線を渡ると左側に2、3軒古い建物があります。ここには最近まで屋根神様がいました。その北で突き当り右に行くと国道に出ます。右手の交差点の角には**赤塚の神明社**があります。城下の五口の一つ、**大曽根の大木戸**はこの辺りにあったようです。

こんどは国道の1本東の道を北に進むと右、



代官町交差点の道標



江戸時代からの油屋さんの資料室



赤塚付近の街道 左の家に屋根神様があった

左と曲がり、少し行った右手には芭蕉の句碑のある了義院、そして閑貞寺、その向こうには片山八幡宮と続きます。街道は坂を下り、突き当って左に直ぐ国道に出ます。旧道は国道の中に呑みこまれ大曽根の交差点になります。

今は少し西に移りましたが、昔は料亭の十州楼がこの辺りにありました。十州が見渡せるということで伊藤博文が命名したといいます。当時は伊勢や遠江の山まで見えたのでしょうか。

＊

街道は交差点の手前で右に曲がりオズモールという再開発の商店街に入ります。区画整理で工事中の区間を通り越すと大曽根駅にぶつかります。その手前、下水の工事中の所に三差路があり、水野街道(瀬戸街道)との分岐点でした。

善光寺街道は北に曲がり、環状線を越えて旧国道に入ります。300m程で現国道に出、右に曲がります。その直ぐ先で右に入ると山田天満宮があります。二代藩主光友が学問振興のために

大宰府から勧請したものです。西の筋を北に行くと山田幼稚園の中に山田重忠の碑があります。

平安時代、西区から瀬戸市まで矢田川流域の広い範囲を治める山田荘という荘園があり、その中心がここにありました。その主、重忠は承久の変に上皇方で戦った勇士で、最後は上皇から無視されて京都で悲劇の最後を遂げました。

国道に戻り少し行くと金虎酒造があります。幕末に大坂屋善兵衛が始めた大善がその基です。その北側の道は古い矢田川の堤防ですが分かってなくなっています。国道を天神橋に向かいます。

＊

昔の天神橋はもう少し下流を渡っていました。その名の起こりは山田天満宮からとも、天神の画が毎年川を渡ったからともいいます。

橋を渡り100m位下流の土手から旧道が北に



山田荘の中心地あとの碑



光友の勧請した山田天満宮



矢田川土手から北につづく旧街道

緩やかに曲がりつつゆくのが見えます。300m位で区画整理で出来た新しい道と交差します。そこを左折しすぐ細い道に入ると、すこし先に石山寺と高牟神社があります。石山寺は鎌倉時代の開基で、その名は観音が近江の石山寺と同名で彫られたことによるといいます。二層の山門の静かなお寺です。隣の高牟神社は奈良時代の創建の式内社とされています。

旧道は緩やかにくねって北に。少し行ったら瀬古小学校を迂回するとその先に東春酒造があります。ここも幕末に龍田屋としてはじめました。店の北側にまわると細い路地に見事な水屋造りが見えます。洪水に備えて地盤を高くしているのです。

街道はその先で国道の高架橋にぶつかります。少し先の通路をくぐると、あとはほんの少しで庄内川の堤防になります。登るとゴルフ練習場の向うに川を越えて勝川が見えます。



東春酒造の水屋づくり



石山寺の二層の山門

一チは善光寺街道か飯田街道かという点です。木曽谷は木材輸送に好都合ですが、狭い谷あいでは難工事が予想されました。

①木曽谷→善光寺街道案、②伊那谷→飯田街道案、そして③伊那谷→善光寺街道の清内路案が検討され、誘致運動が繰り広げられましたが、明治26年、①案に決まりました。

しかし、善光寺街道ルートについても問題が出ました。春日井の丘陵地は養蚕地帯になっており、汽車の出す煤煙が桑にとって心配でした。また街道沿いは旅籠や運送業者にとっても仕事を取られることになります。新しい交通手段の登場は地域に大きな摩擦を起します。

住民の反対運動の結果、小牧經由案や瀬戸經由案も検討されましたが、結局庄内川沿いに多くのトンネルを掘って進む案になりました。そして人も物も鉄道で運ぶ時代になり、丘の上の街道沿いは静かな所になりました。

それから半世紀たち、自動車の時代になって、また丘の上はにぎやかになりました。勝川の宿場で賑わった辺りも、今は鉄道、国道、高速道路が入り混じり、昔の面影はありません。

木枯しや 耳にかすかな 鈴の道

〈主な参考文献〉

- ①日下英之「熱田一歴史散歩」(1999, 風媒社)
- ②安藤直太郎監修「下街道」(1976, 春日井郷土史研究会)
- ③村中治彦監修「下街道を歩く」(2002, 春日井市文化財友の会)

4 街道から鉄道へ、そして…

明治の後半になって、善光寺街道には大きな変化がありました。中央鉄道(今の JR 中央線)が敷設されることになったのです。

中央西線についてはいろいろなルートが検討されました。大きく見れば、一つは木曽谷を通るか伊那谷を通るか。二つは名古屋へのアプロ